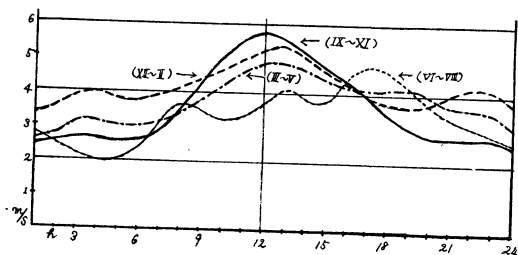


表). NE風の始まりは夜間に多く12~19hの昼間には特に少ない. 終るのは9~11hの間が多く夜間には少ない. これは海陸風の変替時刻と一致する.

(2) NE風の日変化は割合に小さい方だがこれを季節別にみると第4図のとおり秋が最も大きく春が小さい. 最大風速は12h前後に現われるが夏は17h前後となっている. 継続時間と最大風速とは $Vx = 0.27h + 1.3$ で表わされるがこの式が適用できるのは24時間くらいまでで, もっと長い継続時間でも日変化などのため最大風速は増加しない.

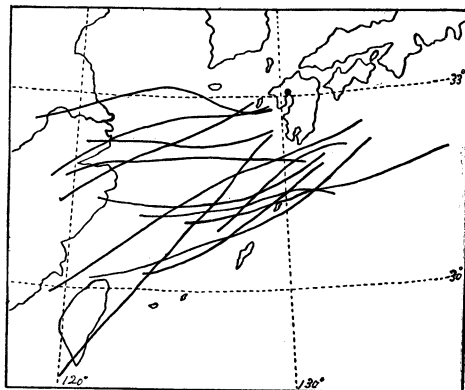


第4図 NE風の日変化 (1953~58)

(3) 佐賀でNE風が続くのは低気圧が東支那海をNE進する場合と, 移動性高気圧が, 日本海に入って北高型の気圧配置となった場合が大部分であるが, 24時間以上継続した場合について調査した結果では両者ほぼ同じで, その最大風速も平均8 m/sで大差なかった. 継続時間の平均では北高型の場合が約10時間長く40時間であった. また低気圧の場合はその全部が雨があったのに対して, 北高型の場合はその継続時間中雨となったのは50%で他は晴れまたは曇りであった. また全般に継続時間が15時間を越えると継続時間中晴天である率は大きく減少し, 雨天となる率が増大する. 長時間NE風が続く場合は悪天の兆と見てさしつかえない.

東支那海をNE進する低気圧は33°N以南を通るものに限って佐賀でNEとなり, この場合には120°E付近に発生直後NE風となり, 西方海上の五島列島付近および

鹿児島南東海上に達した時N~NWの風に変る. 第5図にNE風が始まってから終るまでの低気圧の経路を示す.



第5図 24時間以上NE風が続いた低気圧の経路 (1958)

5. むすび

ここでとりあげた海陸風, 北東風とも日常経験していることであるが, いくらからでも確かなものと思いたいと思って調査した. この外海陸風では3~4時間程度海風が続いた場合も入れると1年のうち半分近くが, 海陸風の風向変化をすること, および北東風では継続時間が48時間を越えるものが1年に数回あり, また継続時間と最大風速や天気との相関がなかなかり高いことなどを感じた. なお北東風については明らかに台風の影響によると思われる場合は除外した.

参考文献

- 1) 渡辺春海 (1958): 人吉の風向について, 天気, Vol. 5, No. 11, 347~349.
- 2) 岡田武松: 気象学上, 207.
- 3) 渡辺次雄: 近代気象調査法, 73~91.

気象の英語 (30)

32. clean と clear

日本語の“きれいな”に相当する英語に, clean と clear とがある. この違いは A. C. D. によると, Clean refers to especially to freedom from soiling : a clean dress. Clear refers particularly to freedom

from flaw or blemish : a clear pane of glass. とあるように, clean は“よごれてない”ことを示し, clear は“きずがない”ことを意味する. また clear には, 透明な, 澄んだ, という意味がある. したがって, きれいな手は clean hands で, きれいな空, は a clear sky である. (有住直介)